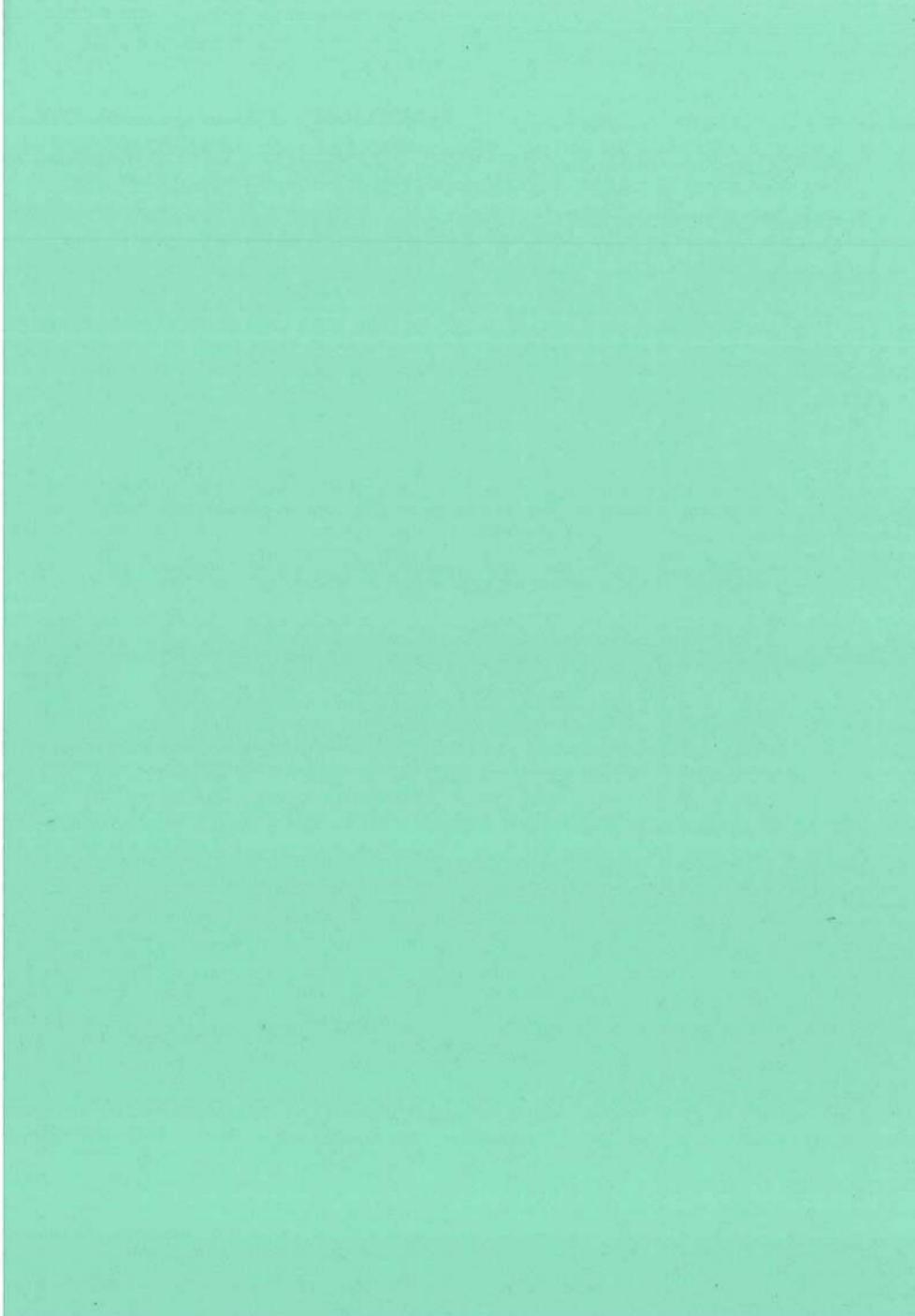


島本町立歴史文化資料館 館報第2号



平成23年3月

島本町立歴史文化資料館



はじめに

国史跡「桜井駅跡」の整備に伴ない記念館として、昭和 16 年に建てられた「麗天館」は約 70 年の歴史を経て、現在、島本町立歴史文化資料館として活用されています。

好天時に資料館の大屋根を見上げますとそのまま、ずっと空に連なっていくような感覚にとらわれ、建設当初、志高く「麗天(空にかかる意)」と名づけられた理由が伝わってくるような気がします。

さて、本資料館も開館 2 年目を迎え、開館 1 周年記念講演として、大阪人間科学大学教授の植松 清志氏に「昭和初期の和風建築」をテーマに、資料館の前身である旧「麗天館」のことにも触れて、お話をさせていただきました。

また平成 21 年度は、島本町指定文化財第 1 号として「水無瀬駒 関連資料」が誕生した記念すべき年でした。そのことに因んで、秋の企画展では、「拓本でめぐる島本の西国街道」とともに「水無瀬駒 関連資料」展を開催し、水無瀬神宮のご協力を得て「水無瀬駒 関連資料」の実物展示と、「水無瀬駒について」の講演会を催し、また、指定を記念して冊子「水無瀬駒」を刊行いたしました。

また、昨年度と同様に新春企画展「しまもとの郷土かるた」原画展、「むかしのくらしと農家のしごと」展を開催しました。

さらに、本資料館の立地条件の良さと、高い天井、古風な雰囲気を活用したコンサートを 6 回実施するとともに、本年度より公募による展示もスタートしました。陶芸作品や竹細工など多くの方に来館していただきました。

最後になりましたが、この 1 年間の企画・運営にあたり、近隣の博物館、資料館、大学の関係各機関の皆様には、貴重なご助言とひとかたならぬご協力を賜り、誠にありがとうございました。また、貴重な資料のご寄贈、ご寄託、資料調査等のご協力をいたいたいた地域の皆様に厚くお礼申しあげます。

今後とも、「郷土の歴史、文化、自然の理解」「参加、交流による人のつながり」を大切にして、資料の収集と整理、展示の充実、及び催物の開催に向けて職員一同で努力をしてまいります。皆様方の一層のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願ひ申しあげます。

平成 23 年 3 月

島本町立歴史文化資料館
館長 大西 健治

目 次

はじめに	1
1周年記念事業	
記念講演 「昭和初期の和風建築」 講師 植松 清志 氏	3
展示	
常設展 「ひと・もの・みち」	5
教育週間企画展 「西国街道道標・水無瀬駒 関連資料」	6
新春企画展 「郷土かるた原画展 ちりぬるをわか」	8
民具・農具展 「むかしのくらしと農家のしごと」	8
教育週間特別講演	
「水無瀬駒について」 講師 熊澤 良尊 氏	9
事業報告	
資料館催物一覧	11
夏休み子ども教室 講師 加藤 武 氏	11
日誌抄録	12
利用状況	13
(寄贈・寄託)	13
受入れ図書	14
条例・規則	16

開館1周年記念講演 「昭和初期の和風建築」

平成21年4月29日(祝)

講師 植松清志氏

今日は「昭和初期の和風建築」についてお話しします。

まず「和風」というものをどのように考えるのか。現在と江戸時代の「和風」とはまったく違います。現在の「和風」というのは江戸以降、洋風建築が入ってきてから成立したものですが、「和」ということが意識されるのは平安時代頃からです。

日本文化の源流がそのまま中国にあると考えるのは間違いで、奈良・平安時代前期の文化は、中国の影響を受けていますが、平安時代後期に遣唐使が廃止されると、中国文化の影響を抜け出して独自の文化を求めるようになります。これを「和」「和様」、または「大和風」などといいます。

平安時代の貴族の住宅は、寝殿造りと呼ばれ、その起源は中国の貴族の住宅にあるといわれています。平面は、間仕切りのほとんどないワンルームで、床は板張りでした。やがて畳を敷き詰められ、屋が区切られるようになります。空間を仕切るものが御簾(みす)から板戸になり、襖障子に変化します。室町時代に、造り付けの床の間・違い棚・書院が出現し、現在の和風住宅の原型といわれる書院造りが成立します。

建具が発達した背景には、大工道具などの工具の発達があります。工具が発達すると、建築物の構造も変化し、建具の装飾や細工も細かくなります。古代の建築物は構造が未発達なため、太くて大きな材料で建築されましたが、中世になると、身近で大材が得にくくなることもあり、細い材で造られるようになります。技術的な発展と意匠の自由化がみられます。技術が発展すると、その技術を継承していくために、中世末から近世にかけて秘伝書が記されるようになります。

桃山時代の建築物は、漆塗りの装飾や金箔などを用いた豪華なものでしたが、1657年の江戸における明暦の大火灾で、それらを引き継いだ多くの建築が焼失しました。江戸時代には、秘伝書が木版の印刷物として市中に出まわり、秘伝でなくなってしまう部分も生じ、技術が均一化されていきます。その結果、規格化が進み、意匠の自由さがなくなる反面、精密な積算が発達します。

江戸時代の建築の装飾は、桃山時代に比較して質素なものが多いようです。また、書院造りは、二条城二の丸殿などのように、一室一機能で、非常に大規模なものが出現します。一方、座敷の格式と形式が整うのに従って、建築制限も行われるようになります。例えば、庶民の家では、書院や欄間、違い棚などは設けることはできませんし、長押(なげし)や釘隠しを打つことも御法度です。床の間は、框(かまち)に塗り仕上げの制限が行われます。折り上げ格天井は、格式の高い武家屋敷の座敷だけに許されていましたが、近代になると武家以外にも見られるようになります。



幕末から明治時代には、外国人の居留地が設けられます。地方の大工達は、横浜の居留地や建築物などを参考に、各地で見様見真似の洋風の建築物を造りました。このような初期の洋風建築は「擬洋風」と呼ばれています。日本人はこういう導入は非常にうまく、和風しか知らなかった大工が、積極的に洋風を取り込むことによって、近代の庶民の和風意識が少しづつ変わっていきます。また明治初期には、外国の技術者によって次々と本格的な洋風建築物が造られ、そこに日本の大工が関わることで技術も洋風化していきました。

明治 20 年代になると、上層階級から洋装が定着し、接客などには洋室が用いられるようになります。明治時代になって、建築制度がなくなつたことで、庶民でも床の間を設けて座敷の格式を整えることができるようになります。

昭和時代に入ると、軍部の力が強くなり、国威の発揚や青年の育成が重視されるようになります。この時代には、鉄筋コンクリート造の建築物に瓦屋根をかけるなどの和風の意匠を施した、「帝冠様式」の建築物が建てられるようになります。代表的なものに、神奈川県庁舎（昭和 3 年）、軍人会館（現九段会館、昭和 9 年）などがあります。一方で、第四師団司令部（旧大阪市立博物館、昭和 6 年）のように、軍部の施設でありながら、ヨーロッパの城郭を思わせる洋風建築物も造られています。

昭和の初めには、和風住宅にも洋室が積極的に取り入れられるようになります。和風の母屋に、ベランダのある洋風の応接間が設けられ、洋風の照明器具や暖炉、窓にはステンドグラスが入っています。一方、長押が施された座敷には、大きな床の間や書院が設けられ、次の間とは欄間でつながっています。主たるところは和風できちんと造られますが、洋風も違和感なく取り入れられています。

昭和 15 年頃になると戦時色が濃くなり、資材調整のため鉄筋コンクリートの建築物はほとんど造られなくなり、木造の武道場的な建物が多くなります。昭和 16 年に建築された龍天館も、この種の建築物で、左右対称をした美しい建築物です。この様な青年道場というものは全国各地で造られましたが、現在ではほとんど残っていません。島本町はよくこれを残されました。壊すのは簡単ですが、今これと同じものを造ろうとしても、技術や予算などの面で問題が多く、なかなかできません。そういう意味でも非常に大事な建築物です。

では、こういう江戸時代から明治・大正・昭和時代へと受け継がれてきた和風は、今後どうなっていくのでしょうか。日本の高温多湿という気候を考えると、畳の部屋がなくなったとしても、玄関で靴を脱ぐ生活様式は残るでしょう。そして床材が畳からフローリングになったとしても、冬場はホットカーペットの上にコタツを置くという、座式の生活様式が継承されると思います。これからは、畳があるか無いかなどではなく、ひとつの型に当てはまらない自由な発想の「和」が続いていくのではないかでしょうか。

* レジュメに従い、スライドを見ながら多くの事例を拝見し、講演をして頂きました。

展示

常設展 「ひと・もの・みち」

島本町は、京都府と大阪府の境に位置し、桂川、宇治川、木津川の三川合流の地にあります。町の中心を西国街道が通り、古来水陸の交通の要衝として栄えてきました。当資料館は、このような背景を中心に「島本と西国街道 - ひと もの みち - 」をテーマに展示を薦めてまいります。

常設展の民具・農具展の体験コーナーでは、「縄ない機」と「足踏ミシン」をいつでも体験していただけます。



開館時間 午前 9 時 30 分～午後 5 時

休 館 日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日休館）

12月 29 日～1月 3 日

特別展準備期間

教育週間 秋の企画展

平成 21 年 11 月 1 日(日)～12 月 6 日(水)

毎年秋に、実施される「教育週間 秋の企画展」では島本町内に点在する「道標の拓本」、島本町指定文化財第 1 号「水無瀬駒 関連資料」をテーマに展示を行いました。



「拓本でめぐる島本の西国街道」

平成 21 年 11 月 1 日(日)～11 月 18 日(水)



「拓本でめぐる島本の西国街道」展では、町内に数多く建っている道標の中から西国街道沿いの道標に焦点をあて、道標に関する展示を行いました。

展示の準備にあたり、資料館職員が真夏の暑い最中、道標から拓本を採取し、拓本から読み取れる資料を収集しました。

そこから推測されたことは、道標は

旅・交通の道しるべだけではなく、庶民の信仰の道しるべでもあったことから、昔の島本町を往来した人々の多くは、信仰の旅をしていたかもしれません。

また、資料館でも道標の実態を体感していただくため、拓本資料を裏打ちし、延ばした拓本とともに、実物大の拓本の道標を作りました。

展示中には、多くの来館者にご覧頂きました。



「水無瀬駒 関連資料」

平成 21 年 11 月 21 日(土)～12 月 6 日(日)

町指定文化財第 1 号に指定された、「水無瀬駒 関連資料」は



小将棋（塗書）、中将棋（墨書）、中将棋（残欠・塗書）、
象戯図（附 象戯図）



中将棋（墨書・八十六才銘）

以上の 4 点です。

「水無瀬駒」は、安土桃山時代から約 400 年間水無瀬家に代々伝わる駒で、能筆家であった水無瀬兼成（13 代目・公家）が制作したものです。制作者、制作年代が分かる日本最古の将棋駒で、駒の材には黄楊が用いられ、高級駒の原始とも言われています。

また、「象戯図」は将棋駒の初期配置や駒の種類が書かれた文章で、将棋駒と並んで非常に貴重な資料です。

特に今回の展示は、11 月 21 日（土）から 23 日（月）の 3 日間に限り、指定を受けた資料の実物を展示しました。展示期間中にはのべ 300 人を超える人の来館があり、おおぜいの人が、兼成の優雅な筆跡に魅了されました。期間中には、水無瀬駒の研究家で将棋駒の作家でもある、熊澤良尊氏による講演会（11 月 21 日 午前 10 時～）や展示の解説（同日 午後 1 時 30 分～）を行いました。



島本町指定文化財第 1 号を記念して、「水無瀬駒」の冊子を刊行しました。



新春企画展

「郷土かるた原画展」

「しまもとの郷土かるた」原画展は、昭和59年に郷土かるた作成委員会と切り絵作家、郷土史家の協力を得て、作りあげた「しまもとの郷土かるた」を多くの人々に紹介することを目的に、平成20年度は「い」～「と」(いろは順)の絵札の原画を展示しました。



平成22年1月5日(火)～1月31日(日)



平成21年度は「ち」～「か」(同順)絵札や関連資料を展示しました。繊細で美しく表現された絵札や関連資料に关心をもたれる来館者の姿が多く見受けられました。

民具・農具展

「むかしのくらしと農家のしごと」

この季節に毎年行われる本展は、昔使われていた民具や農具を展示しています。今期は実際に縄ない機や足踏み式ミシン、唐箕などを体験していただくコーナーを設けました。

また、町内4校の小学3年生が社会科の体験学習に訪れ、熱心に見学していました。授業見学以外にも家族や友人たちと再三訪れる姿もみられ、初めての体験に楽しそうな様子が伺え、昔を懐かしまれる大人の方も多く来館されました。

平成22年2月3日(水)～3月7日(日)



教育週間特別講演「水無瀬駒について」

平成 21 年 11 月 21 日 (土)

講 師 熊 澤 良 尊 氏

今日は将棋の駒と、島本町、水無瀬神宮について話します。

将棋は、日本に来て 1000 年以上の歴史があります。インドのチャトランガという遊びが西の方に伝わってチェスになり、中国や朝鮮半島を経由して日本に伝わって将棋になりました。

日本に現存している将棋の資料としては、奈良の興福寺の境内から 11 世紀のものとされる将棋の駒が 10 数枚出ており、これが現在、一番古い駒とされています。

古い駒には、出土駒と、水無瀬神宮のように代々伝えられた駒とがあり、遺跡から出てくる駒は庶民がありあわせの素材で作った使い捨ての消耗品で、一方、代々大切に保存されている駒は宝。特に水無瀬駒は黄楊などを用いた超級駒で、天皇や公家仲間、武将が繰り返し買い求めており、庶民の手には渡らなかったのです。

水無瀬駒は今から 400 年前（室町時代から安土桃山時代）から作られ、当時、公家たちは盛んに将棋を指していました。当時の水無瀬神宮の当主（神主）・水無瀬兼成の祖父・三条西実隆は、将棋好きで且つ達筆だったことから、仲間や天皇からの依頼を受け、しばしば駒の字を書いていました。このことは『実隆公記』という日記に記述があり、孫の兼成も、天皇からの命で駒の字を書くようになりました。

水無瀬神宮に保管されている『将碁馬日記』は、兼成筆の駒を届けた相手を記したもので、1590 年から 1602 年（兼成 77 歳～89 歳）の記録です。馬日記の馬とは駒のことで、日記には届け先の名前が 12 年間で 737 組分記録されています。

日記によれば、後陽成天皇や正親町上皇、公家が多く購入しており、公家が好んで注文したのは、駒が 92 枚の中将棋、武将が好んだのは駒 40 枚の小将棋でした。武将では徳川家康が 53 組も購入しており、他にも前田利家や毛利元就などの記録があります。

昨年、福井県の人が象牙の古い駒を持っているというので拝見すると、ひと目で水無瀬駒とわかりました。“玉将”的おしりに「八十五才」と書いてあり、日記を見ると、水無瀬駒は黄楊、白檀、桑製もあるが、象牙製は珍しく 5 組しか記録はありません。85 歳のときに作っている中に「象牙」とあり、届け先は道休（=室町 15 代將軍である義昭の出家後の名）。後の 4 組のうち、家康、秀頼、秀吉の正妻・北政所の甥、もう一組は長東直吉という大名へ渡っており、やはりしかるべき地位の人に渡っています。

また名古屋の徳川美術館にも兼成筆の駒が収められており、三代將軍の娘千代姫が 3 歳で名古屋の徳川家に嫁いだ際の嫁入り道具の一つで、蒔絵の将棋盤も含めて国宝に認定されています。兼成筆の駒 737 組のうち、水無瀬神宮に保存されている 2 組も含めて、現在でも 10 組ほどが残されています。



現在の駒は、彫り駒や盛り上げ駒がポピュラーで、これらは下書きが可能で、字が上手でなくとも書ける職人技として明治頃に生まれた技術です。それ以前は書き駒で、水無瀬駒はたいてい黄楊に漆で文字が書かれていますが、字が上手なので、一筆で立派な字が書かれています。

水無瀬家では兼成をはじめとして、その子・孫、三代にわたって、江戸時代の初頭まで、駒を作っています。しかしそれらの駒はごくわずかしか残っていません。その後は専門職としての駒作り職人が登場し、字の上手な公家達が駒を書く時代というのは、江戸時代の半ばで途切れてしましました。

現在では将棋の駒というと山形県の天童市と思われていますが、もともとは大阪から取り入れられたもので、江戸時代の風土記に摂津の生産物として将棋の駒の記述があり、大きな産地だったことがわかります。大阪で作られた駒が、幕末の頃に天童に取り入れられて地場産業として発達し、現在では95%以上のシェアを持っているのです。

とはいえた水無瀬の駒は、現在の近代的に洗練された駒の基になっています。水無瀬形（みなせがた）あるいは「兼成卿写」といわれた駒は江戸時代も連綿と駒師たちに受け継がれ、現在では「水無瀬書」と呼ばれて残っています。しかし「水無瀬書」は長い間に字が変わり、古い駒の字の美しさは薄れつつあります。

『象戯図』という、水無瀬兼成によって書写された将棋に関する説明書も残されています。兼成が天正19年に、それからさらに150年も古い書物を写し取った巻物で、序文に将棋に関する能書きがあり、駒の並べ方と進め方が書いてあります。『象戯図』は現在、水無瀬神宮に2巻と東京の中央図書館に1巻、天童市の将棋資料館にもう1巻あり、豊臣秀次、秀賴に6~7種類の駒を献上したときに併せて巻物も獻上していると思われます。

島本町では、平成21年4月に町の歴史的文化財の第一号として認定されました。これは非常にめでたい話ですが、なぜもっと継続的に水無瀬駒に関する事業がなされなかつたのか、残念です。それだけの価値のあるものなので、これを機会に、将棋の駒といえば水無瀬、水無瀬といえば将棋の駒、というのが浸透していくべきだと思います。



事業報告

平成 21 年度 歴史文化資料館催物一覧（教育委員会主催）

日 時	催 物	参加人数
4月 29日 (祝)	開館 1周年記念講演 「昭和初期の和風建築」 講師 植松 清志氏（大阪人間科学大学教授）	68人
5月 17日 (日)	第 9回コンサート 「山下 喜美 ヴァイオリンリサイタル」	99人
6月 20日 (土)	第 10回コンサート 「藤原ファミリエ・パロック・アンサンブル」	103人
8月 7日 (金)	第 2回 夏休み子ども教室 「町内文化財の観察と自然を体験しよう」	7人
9月 27日 (日)	第 11回コンサート 「奥田博美 ソプラノ リサイタル」	42人
10月 25日 (日)	第 12回コンサート コーラス「シャンテ」	57人
11月 21日 (土)	教育週間 秋の企画展 講演会「水無瀬駒について」 講師 熊澤 良尊氏(将棋研究家)	61人
12月 12日 (土)	第 13回コンサート 「ma*marc(ママルク)&yumi」 ～クリスマス・ジョイントコンサート～	62人
3月 14日 (日)	第 14回コンサート 「ゆりの花コーラス」	49人
合 計		548人

夏休み子ども教室 「町内文化財の観察と自然を体験しよう」

平成 21 年 8 月 7 日(金)

講師 加藤 武 氏



「大阪府天然記念物に指定されている大沢の大スギを観察したあと、町内最高峰の釈迦岳(631.4m)に登り、島本町の大自然を学び、体験しよう」というテーマのもとに、町内在住で島本の自然環境や動植物の生態に詳しい加藤武先生を講師として、参加者の小学校高学年の皆さんと資料館ボランティアの皆さんなど、合計 15 名で出発しました。大沢では、高さ約 20m、幹周り約 7m の巨大な大スギを間近に見上げて、その神々しさに打たれたあと、そこから釈迦岳へ向けて高低差約 300m の急坂を登りました。

途中ところどころで、樹木の説明、タヌキの糞の話、炭焼きの窯あと、植林の話など、実物を見ながら説明していただきました。かなり上へ登ったところには、水無瀬川の源流の一つがあり、その清冽な水を引き入れて作った天然氷の製造地とともに見学できました。ようやく釈迦岳の頂上に登りつめたときは、参加者のみなさんはかなり疲れしていましたが、空いたお腹には弁当がとてもおいしく感じられました。

入館団体 平成21年度(2009)	
4月 2日	大山崎町さとうさんティア
4月19日	岐阜市道と歴史研究会
4月21日	茨木市シルバー人材センター 3団体
5月13日	大阪市いじょう大学同窓会
5月14日	金谷受給者吹田支部
5月28日	島本町年長者会 3団体
6月 6日	NHK文化センター①
6月10日	NHK文化センター②
6月19日	高槻市24団友会
6月20日	NHK文化センター③
	神戸歴史探訪クラブ 5団体
9月 8日	ふるさと島本町案内ボランティア
9月18日	高槻市健歩会
9月29日	京都市JASS 高槻市オレンジくらぶ 4団体
10月23日	大阪狭山市熱年しきい実行委員会 1団体
11月22日	高槻市地域コミュニティセンター 島本町慈々クラブ
11月23日	大正医療生協
11月26日	木曜日歴史研究会
11月28日	北大阪ユーラジオネットワーク山崎合戦を歩く 小沢様子後援会 6団体
12月10日	郵政退職者長寿の会北摂支部
12月15日	奈良市懇かわ交流塾
12月16日	大津市21世紀歴史を歩く会 3団体
2月 5日	町立第四小学校 3年生
2月 7日	大阪市文学歴史ウォーク
2月 9日	町立第三小学校 3年生
2月18日	町立第一小学校 3年生
2月25日	町立第二小学校 3年生 5団体
3月 7日	長浜市長浜歩く会
3月20日	WE会 2団体

年間 32団体入館

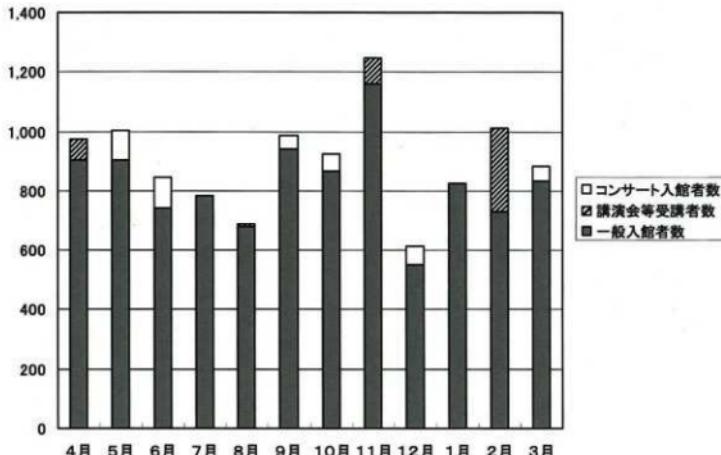
日誌抄録 平成21年度(2009)	
4月12日	開館一周年
4月14日	島本町文化推進委員会 第1回
4月17日	消防設備点検
4月18日	ツールド三川・西国街道イベント
4月29日	開館一周年記念講演会 「昭和初期の和風建築」 植松 清志氏 入館者用島本の水の設置 資料館ボランティア 研修(1)
5月 9日	ツールド三川・西国街道イベント
5月17日	第5回コンサート 「ヴァイオリン リサイタル」
5月19日	新規インフルエンザ対策のため休館(～24日)
5月27日	島本町歴史文化資料館懇話会 第1回
6月12日	島本町文化推進委員会 第2回
6月20日	第10回コンサート 「ハロック・アンサンブル」
7月 8日	島本町歴史文化資料館懇話会 第2回
7月14日	資料館ボランティア 夏休み子ども教室の説明
8月 7日	第2回夏休み子ども教室
8月22日	第10回 かぐや姫のタペ
8月27日	島本町文化推進委員会、歴史文化資料館懇話会 合同種原市今井町視察
9月16日	島本町歴史文化資料館懇話会 第3回
9月27日	第11回コンサート 「ソプラノ・リサイタル」
9月30日	AED設置
10月17日	淀川三川ふれあいイベント
10月20日	資料館ボランティア 企画展概要説明
10月23日	島本町文化推進委員会 第3回
10月25日	第12回コンサート 「シャンテ」 島本町立第四小学校PTAコーラス
11月 1日	教育通間 秋の企画展開催 「拓本でめぐる島本の西国街道」(～11/18) 「水無瀬駒間道資料」(～12/6)
11月11日	第二中学校聯席体験学習(～13日)
11月21日	秋の企画展講演会 「水無瀬駒について」 熊澤 良尊氏 水無瀬駒实物展示(～23日) ケーブルテレビJCOM取材 資料館ボランティア 研修(2)
11月25日	島本町歴史文化資料館懇話会 第4回
11月28日	北大阪ユーラジオネットワークイベント 「山崎合戦を歩く」
12月11日	島本町文化推進委員会 第4回
12月12日	第13回コンサート 「ma*maro ママルク」 フルート、ピアノ、ソプラノ
12月17日	消防訓練
12月25日	グランドピアノ搬入
1月 5日	企画展開催(～31) 「しまもと郷土かるた原画展」
1月19日	資料館ボランティア 企画展概要説明
1月20日	島本町歴史文化資料館懇話会 第5回
1月22日	資料館ボランティア 企画展概要説明
1月23日	ケーブルテレビJCOM取材
1月24日	広報道路免振譜実現地説明会
1月26日	公募による展示 「陶芸クラブ 炎」(～31日)
2月 1日	企画展開催(～3/7) 「むかしのくらし展」
2月 6日	ケーブルテレビJCOM取材
2月16日	島本町文化推進委員会 第5回
3月 1日	島本町文化財保護審議会 第1回
3月 2日	公募による展示 「島本竹工房」(～7日)
3月14日	第14回コンサート 「ゆりの花コーラス」
3月17日	島本町歴史文化資料館懇話会 第6回
3月18日	島本町文化財保護審議会 第2回

利用状況

平成21年度入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般入館者数	904	905	741	782	680	942	865	1,158	552	826	728	832	9,915
講演会等受講者数	68	0	0	0	7	0	0	89	0	0	284	0	448
コンサート入館者数	0	99	103	0	0	42	57	0	62	0	0	49	412
総入館者数	972	1,004	844	782	687	984	922	1,247	614	826	1,012	881	10,775

入館者数(人)



たくさんの方より **寄託・寄贈** を受けました。ありがとうございました。

書籍、教科書類、古文書 等

67点

昭和の生活用具、民具、人形、軸、絵馬、古銭 等

1772点

受入れ図書

発行	刊行物名	発行	刊行物名
朝倉市教育委員会	恩家森保存整備報告書 福岡県朝倉市山田所在「国指定天然記念物『恩家森』保存整備報告書」	大阪府教育委員会	林道跡・國府遺跡・土師の里遺跡—一般国道(旧)170号及び主要地方道堺大和高田線交差点改良工事に伴う発掘調査—
茨木市教育委員会	山ノ下遺跡 朝倉市文化財調査報告書第7集 朝倉市文化財年報(平成18年度・19年度) 八並遺跡・井出野遺跡 福岡県朝倉市須川及び比良松所在道路の調査	大阪府立狭山池博物館	越後古墳—大阪府立堺支援学校福祉整備事業に伴う発掘調査—
泉佐野市教育委員会	茨木市新60周年記念事業 文化財シンポジウム記念「鹿原鏡と阿武山古墳」 大阪府茨木市 平成20年度発掘調査概報 一個人住宅建設計に伴う発掘調査報告書	年報 13	鶴見北遺跡発掘調査概要・Ⅷ 加納古墳群・平石古墳群 (本文編・図版編)
泉佐野市教育委員会	森山遺跡 07-2区の調査	大阪府立狭山池博物館	狭山池復活—慶長の改修にみる先端技術—
泉佐野市教育委員会	泉佐野市大木・土丸地区詳細分布調査報告書 平成19・20年度の調査	大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府立狭山池博物館 研究報告5・6
泉佐野市理塵文化財発掘調査概要 第58号・第59号	泉佐野市理塵文化財発掘調査概要 平成20年度	館報 12	館報 30・vol. 31
泉大津市教育委員会	泉大津市理塵文化財発掘調査概報27	大阪府立近つ飛鳥博物館	平成21年度春季特別展 車弦吹死す 大いに夏をつくる 前方後円墳の成立
泉大津市教育委員会	おほつ研究 vol.6	大阪府立弥生文化博物館	平成21年度秋季企画展 河内平野の東漁と古墳—諸の4世紀を探る
池田市教育委員会	池田市埋蔵文化財発掘調査概報 2008年度 新修 池田市史 第3巻	大阪府立弥生文化博物館	平成21年度冬季特別展 ふたつの飛鳥の終末 飛古墳・河内飛鳥と大和飛鳥
和泉市いづみの国歴史館	平成21年度特別展 国隠鏡 中世和泉のライフスタイル 平成20年度特別展 国隠鏡 和泉黄金塚の時代	大阪府立弥生文化博物館	第1回大坂・滋賀博連携企画「弥生誕生を探る」 平成21年度春季特別展 弥生建築—春歌吟の住まい—
和泉市教育委員会	和泉市埋蔵文化財発掘調査概報19 和泉市史記要第16集 和泉中央丘陵における村の歴史	大山崎町教育委員会	平成21年度秋季特別展 大阪の宝物—出土品が歴史を語る—
財団法人 大阪府文化財センター	岸和田市 下池田遺跡 一大阪府営岸和田下池田住宅民活プロジェクトに伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 交野市 上私部道遺跡Ⅲ・有池遺跡Ⅲ—一般国道1号バイパス・第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 年報 平成19年度 財团法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近づ飛鳥博物館 2007年度 共同研究成果報告書 市守堺市 松原市天美西 大和川今池遺跡1-1題波大通の調査— 三宅西遺跡 讚良郡条里遺跡Ⅲ 讚良郡条里遺跡Ⅳ 松原市 大和川今池遺跡Ⅱ—都市計画道路大和川線および都市計画道路堺松原線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 大阪文化財研究 第34号 八尾市新町 山質遺跡Ⅱ・寝屋川水系改良事業地内の埋蔵文化財に係る発掘調査— 大阪府立山文化財報告書36 大阪府立山市内遺跡発掘調査概要報告書19 大阪府立山市内遺跡発掘調査概要報告書19 長尾山古墳第2次・第3次発掘調査概報	大山崎町歴史資料館	要賀 平成20年度
	大和川今池遺跡Ⅱ—都市計画道路大和川線および都市計画道路堺松原線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書— 大阪文化財研究 第34号 八尾市新町 山質遺跡Ⅱ・寝屋川水系改良事業地内の埋蔵文化財に係る発掘調査— 大阪府立山文化財報告書36 大阪府立山市内遺跡発掘調査概要報告書19 長尾山古墳第2次・第3次発掘調査概報	河内長野市教育委員会	文化財年報 平成19年度 大山崎町埋蔵文化財調査報告書 第38集 一平成20年度国庫補助事業調査概報—
			第17回企画展 豊臣秀吉と大山崎
		大山崎町教育委員会	鉛報 第15号 2008
		河内長野市教育委員会	河内長野市埋蔵文化財調査報告書XXIV 鳥居子形城跡・三日市北遺跡・三日市宿跡 蝶心寺遺跡 史跡細心寺境内・金剛寺境内保存管理計画書
		貝塚教育委員会	かいづか文化財だより テンプス 37号-40号 文化財年報7 平成20年度 貝塚市埋蔵文化財調査報告 第77集 貝塚市道跡野原遺跡調査概要31 平成20年度貝塚市郷土資料展示室企画展2回目 貝塚市内の民族芸能 平成20年度貝塚市郷土資料展示室特別展圓鏡 貝塚市内の近世建築
		関西大学博物館	衆報 肝臓 No.58-No.59
		交野市教育委員会	交野市埋蔵文化財調査報告2008-1 平成20年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要 私市村役人文書
		財團法人人文市文化財事業団	交野市文化財だより 第18号・第19号 財團法人交野市文化財事業団設立15周年記念 北河内の古墳 初・中期古墳を中心に 大阪府指定史跡 名勝久米田池 都市計画道路田治米坂線に伴う発掘調査報告書
		岸和田市教育委員会	平成20年度発掘調査概要
		京都橘大学 文学部	文化財調査報告 2008 牧野草塙古墳・紫野草塙古墳・宮道古墳・大老虎丘瓦窯跡
		京都市文化市民局	京都市内遺跡発掘調査報告 平成20年度 京都市内遺跡発掘調査報告 平成20年度 京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度

発行	刊行物名	発行	刊行物名
柏原市教育委員会	柏原市内遺跡群発掘調査概報 平成18年度～20年度	独立行政法人 国立文化財機構 奈良國立文化財研究所	埋蔵文化財ニュース 134～137 遺跡情報交換標準の研究 第2版
柏原市立歴史資料館	ゴンドラ No.6 河内国志紀郡柏原村 寺田家文書目録 I 越報 第21号～2008年度～	社団法人日本工芸会 近畿支部	第38回 日本伝統工芸近畿展
財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター	平成21年度夏季企画展 松岳山古墳群を探る 平成21年度秋季企画展 ふりかえれば大和川～大和川の「かけえ」工事～	能勢町教育委員会	平成20年度 能勢町埋蔵文化財調査概要
熊取町教育委員会	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書～XXIII 国選択大阪府指定 無形民俗文化財 上神谷の「おどり」DVD	東大阪市教育委員会	みかん山古墳群第2次発掘調査報告 鬼虎川遺跡第64次発掘調査報告 送水管設置工事に伴う
堺市教育委員会	改訂増補版 ハンドブック 堀の文化財 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第123冊～第129冊 史跡土塔整備事業報告書 百舌鳥古墳群の調査2	東大阪市立郷土博物館	五里山古墳群第5次発掘調査報告 補助遺跡第19次発掘調査概報 倉庫建設に伴う 新上小阪遺跡第1次発掘調査概報 宅地造成に伴う 東大阪市下水道事業係発掘調査概要報告 平成20年度 東大阪市埋蔵文化財発掘調査概報 平成20年度
滋賀県立大学人間文化学部	人間文化 25号・26号	枚方市教育委員会	平成21年度特別展示 織りの四季 特別史跡 百濟寺跡 平成20年度確認調査概要
吹田市教育委員会	旧西尾家住宅(吹田文化創造交流館)総合調査報告書～文書目録 蔵人遺跡発掘調査報告書 II 蔵人遺跡第17次発掘調査 平成20(2008)年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報	藤井寺市教育委員会	枚方市埋蔵文化財発掘調査概要 2008
吹田市立博物館	すいはー博物館だより №37～39	藤井寺市	藤井寺市発掘調査概報 第1号
泉南郡田尻町教育委員会	田尻町文化財調査報告第17集 田尻町内遺跡発掘調査概要10	港区教育委員	石川流域遺跡群発掘調査報告書XXIV 藤井寺市文化財報告書第29集
泉南市教育委員会	泉南市遺跡群発掘調査報告書XXVI 泉南市文化財調査報告書 第49集		長門長府藤原毛利家屋敷跡 麻布桜田町跡歴史遺跡調査報告書 三田寺町の江戸建築 東京都心にいきづく江戸時代の町と建物
高石市教育委員会	大園遺跡他の発掘調査概要 高石市文化財発掘調査概要2008～1		上野沼田藤原毛利家屋敷跡遺跡発掘調査報告書 乗泉寺跡・大法寺跡遺跡 円福寺跡遺跡発掘調査報告書～経年・人骨編～
太子町立竹内街歴史資料館	平成19年度企画展 女帝誕生 一推古天皇の即位と治世～ 平成20年度企画展 図録 变装するサスカイト～その魅惑と牙香～		石見津和野藩藤井家屋敷跡遺跡発掘調査報告書II 長門長府藤原毛利家屋敷跡遺跡発掘調査報告書II
大東市教育委員会	大東市史編纂史料目録第4集 東家文書		肥後熊本藩鍋川家屋敷跡遺跡発掘調査報告書 佛曰山東禪寺 最初のイギリス公使館跡に係る現況確認調査報告書
大東市立歴史民俗資料館	文化財マップ 特別展 野崎まいりとお染・久松企画展 大東の地図遺産	港区郷土資料館	堆上寺伝説家豪殿 平成21年度港区立港郷土資料館特別展 研究紀要11(平成20年度) 館報26 平成19年度版(2007年度版) 資料館により 第64号・第65号
高槻市教育委員会	山上遺跡群33	人間文化研究機構 国立民族学博物館	月刊みんぱく 2009年4月号～2010年3月号
高槻市立しづか歴史館	平成18～20年度埋蔵文化財保存活用整備事業 古代の街・北摂！ 今城塚古墳の3つの石碑を市民の手で復元～	向日市文化資料館	開館25周年記念特別展 むこうしの文化遺産～みちかなか歴史のモノがたり
附団法人 伝統文化活性化国際協会 帝塚山大学附属博物館	平成21年秋特別展 北摂の戦国時代 高山右近		物集女立陵墓関係史料集
富田林市教育委員会	薪ヶ田南遺跡Ⅰ 薪ヶ田南遺跡Ⅱ	八幡市教育委員会	女郎花遺跡(第11～2次)発掘調査報告書 八幡市埋蔵文化財発掘調査報告 第52集 平成20年度国庫補助事業 美術館調査報告書
豊岡市教育委員会	平成20年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書	八尾市教育委員会	八尾の文化財V 「安中新田会所跡旧畠田家住宅」 八尾の文化財VI 「安中新田会所跡旧畠田家住宅」 八尾市制大々周年記念事業 高安千様シンボジウム資料集・記録集 八尾市文化財調査報告書59 平成20年度国庫補助事業、八尾市内遺跡 平成20年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告書60 平成20年度国庫補助高安古墳群発掘事業、高安古墳群、調査報告書出土遺物整理調査 舟川支流東側地区測量報告書
長岡京市教育委員会	恵解山古墳 第9次調査概報～	八尾市立埋蔵文化財調査センター	平成20年度秋季企画展 やのの古代 ～くらしのり～
	長岡京市文化財調査報告書 第53号		

○ 島本町立歴史文化資料館設置条例

平成 15 年 10 月 10 日

条例第 17 号

(設置)

第 1 条 郷土を中心とした歴史、考古、民俗等に関する資料(以下「資料」という。)を展示し、及びその活用を図り、住民の郷土理解と文化的向上に資するため、島本町立歴史文化資料館を設置する。

(名称及び位置)

第 2 条 島本町立歴史文化資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

- (1) 名称 島本町立歴史文化資料館
- (2) 位置 島本町桜井一丁目 3 番 1 号

(事業)

第 3 条 島本町立歴史文化資料館(以下「資料館」という。)は、第 1 条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料の調査及び研究に関すること。
- (3) 資料の展示及び利用に関すること。
- (4) 資料に係る講習会、研究会等に関すること。
- (5) その他教育委員会が必要と認める事業

(開館時間及び休館日)

第 4 条 資料館の開館時間及び休館日は、教育委員会が定める。

(職員)

第 5 条 資料館に、館長その他必要な職員を置くことができる。

(入館の制限)

第 6 条 教育委員会は、管理上必要があると認めるときは、入館を制限し、又は退館を命ずることができる。

(委任)

第 7 条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、規則で定める日から施行する。

(施行の日=平成 16 年 4 月 1 日)

○島本町立歴史文化資料館設置条例施行規則

平成 17 年 3 月 31 日

教委規則第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、島本町立歴史文化資料館設置条例(平成 15 年島本町条例第 17 号)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第 2 条 島本町立歴史文化資料館(以下「資料館」という。)に、次の職員を置く。

- (1) 館長 1 人
- (2) その他の職員 若干人

(職務)

第 3 条 資料館の館長は、教育長の命を受け、館務を掌理し、所属職員を指揮監督して、資料館の任務の達成に努める。

2 その他の職員は、館長の命を受け、事務に従事する。

(開館時間)

第 4 条 資料館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。ただし、島本町教育委員会(以下「教育委員会」という。)が必要と認めるときは、これを短縮し、又は延長することができる。

(平 20 教委規則 2・一部改正)

(休館日)

第 5 条 資料館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、休館日を変更し、又は臨時に休館することができる。

(1) 毎週月曜日(月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日の場合は、その翌日)

(2) 12 月 29 日から 1 月 3 日までの日(前号に掲げる日を除く)

(3) 特別展示及び企画展示等の準備のため教育委員会が必要と認める期間

(平 20 教委規則 2・一部改正)

(研究)

第 6 条 資料館の資料について特別の研究をしようとする者は、教育委員会の許可を受けるものとする。

(資料の貸出し)

第 7 条 資料の館外貸出しは行わない。ただし、教育委員会が適当と認めるときは、この限りでない。

2 資料の館外貸出しを受けようとする者は、館外貸出許可申請書(様式第 1 号)を教育委員会に提出し、その許可を受けるものとする。

3 教育委員会は、資料の館外貸出しを許可したときは、館外貸出許可書(様式第 2 号)を交付するものとする。

4 資料の館外貸出しの期間は、1箇月以内とする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、資料の利用の制限、入館制限、又は退館を命ずることができる。

(1) 他の利用者に迷惑をかけ、又はかけるおそれのある者

(2) 建物、附属設備又は資料をき損するおそれのある者

(3) 前2号の規定にかかわらず、資料館の使用に関し教育委員会の指示に従わない者

(損害賠償)

第9条 利用者は、資料館の資料、設備、備品、器具等を紛失し、又は損傷した場合は、現物又は相当の代価をもって弁償しなければならない。ただし、避けることができない事故その他やむを得ない事情によるものであると教育委員会が認めるときは、この限りでない。

(資料の寄贈及び寄託)

第10条 資料館は、資料の寄贈又は寄託を受けたときは、他の資料と同様の取扱いにより一般的に利用に供することができる。

2 資料の寄贈又は寄託をしようとする者は、資料寄贈申込書(様式第3号)又は資料寄託申込書(様式第4号)を教育委員会に提出するものとする。

3 教育委員会は、資料を受け入れたときは、寄贈者に対して資料受領書(様式第5号)を、寄託者に対しては資料受託書(様式第6号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、前項の資料受託書と引換えに返還するものとする。ただし、当該資料が貸し出されている場合は、その返却を受けた後に、受託者に返還するものとする。

(委任)

第11条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月3日教委規則第2号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

島本町立歴史文化資料館館報 第2号
平成21年度版(2009)

発行 島本町教育委員会

〒618-8570

大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号

TEL 075-961-5151

発行日 平成23年3月

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093

京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300

TEL 075-256-0961

△

